

現況調査表（教育）

令和 8 年 5 月

お茶の水女子大学

目 次

1. 文教育学部	1 - 1
2. 理学部	2 - 1
3. 生活科学部	3 - 1
4. 共創工学部	4 - 1
5. 人間文化創成科学研究科	5 - 1

1. 文教育学部

(1) 文教育学部の教育目的と特徴 1-2

(2) 「教育の水準」の分析 1-3

(1) 文教育学部の教育目的と特徴

本学部は、1949年に文学部として設置され、翌年3学部体制発足により、文教育学部に名称を改めた。国内唯一の名称をもつ学部として、人文学の諸学問と教職／リベラルアーツに関わる諸学問を融合したユニークな文系総合学部といえる。本学部は専門教育の目的を、「人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする」(出典：学則第4条の1) こととしており、基礎的な専門能力とともに、社会の様々な場で生涯にわたってそれを応用する力をもったグローバル女性リーダーを育成している。

教育研究上の特色としては、以下の点を挙げることができる。

本学部には、人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や発達、言語・文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、多彩な研究分野があり、そこでは「生きている」人間とその文化や社会への関心が核となっている。

本学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科という4つの学科からなり、各学科に複数のコースと、学科の枠を越えた「グローバル文化学環」が設置され、専門教育のプログラムを提供している。その中で、人間が長い歴史のなかで作りあげてきた文化や社会のあり方を研究するとともに、グローバル化する世界で生きる力を養っている。「複数プログラム選択履修制度」では、学生のニーズや個性にあわせてプログラムを選び、ひとつの専門を深めることも、複数の専門分野を広く学ぶこともできる。

また、哲学、歴史学、地理学、文学、言語学、教育学、社会学、子ども学、芸術学など、多様な研究分野と研究方法の教員が在籍する本学部では、中国古典文学から現代世界の社会問題まで学ぶことができ、他学科や他コースの副プログラムを選んだり個々の授業に参加したりしやすい。さらに、1人の教員あたりの学生数が少なく、時には1つの授業に学生が数人という贅沢な教育環境が提供されるほか、実習や学外での研修が組み込まれているプログラムもある。

(2) 「教育の水準」の分析

【第4期中期目標期間に係る特記事項】※以下、【】内は関連する中期計画番号。

○ 主体的な学修、学生からの授業評価【K10】

本学は専門及び教養教育に独自の教育プログラムを導入し、学部・学科の枠組みを越えた関心を持つ学生に対して多様な学習機会を提供する教育課程を編成している（別添資料1）。令和6年度からは、他学部が第2プログラムとして開講する科目を履修できるよう「複数プログラム選択履修制度」を改善し、より幅広い分野の学修が可能となった。本学部では所属学科以外のプログラムを履修する学生の割合は43.4%と高く（別添資料2）、制度の趣旨のとおり多様で主体的な学びに資するものとなっている。令和7年度卒業生アンケート（回収率37.5%）では、本学部の「文理融合リベラルアーツ」の満足度は93.7%、「複数プログラム選択履修制度」の満足度は85.7%である。学生からの授業評価アンケート（回答率は毎年度95%以上）では、授業内容の評価項目に「シラバスの適切性」、「評価の適切性」など7項目を設けており、本学部開講の専門科目では、平均80.71点という高い評価を得ている（別添資料3）。

○ 教育研究の指導体制、教育環境【K18】

本学部の専任教員に占める女性比率は、48.5%（令和7年度）であり、学系別（総合文系、学士課程）では2位、全学系（学士課程）でも5位に位置している。女性がマイノリティになりやすい分野においても女性教員が存在する環境は、本学部の学生にとって、学問を学ぶ上のみでなくライフスタイルやキャリアパスの身近なロールモデルを得る上でも適したものになっている（指標番号E07）。また、教員1人当たりの学生数は、第4期平均で12.9名であり（指標番号E06）、高度な専門分野における充実した指導体制が確保されている。こうした教育環境は大学院進学率の高さにも結実しており、本学部の令和6年度の進学率は23.3%と、令和4年度の16.9%から向上（指標番号E11）している。学系内では令和6年度に4位であるが、上位3校である芸術系学部を除くと、本学部が1位である。

○ 文教育学部1号館の改修工事

令和4年4月～令和6年3月に文教育学部1号館の改修工事を行い、講義室や談話라운ジの整備、教員の研究室の再配置、図書室・雑誌室の整備等により学生の学習環境を向上させた。例えば日本語・日本文学コースでは集密書架（単式固定7段 4連1台・複式移

動7段 4連10台／総棚段数588段）の新設と書架の増設により収容力が拡充された。

○ コンピテンシーの育成【K6、K8】

本学では令和4年度よりコンピテンシー育成開発研究所を新設し、コンピテンシーに基づく教育改革を推進している。「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つのカテゴリーに属する10項目を「お茶大コンピテンシー10」として定め、令和6年度には、各授業で伸長が期待されるコンピテンシーをシラバスに明示している。さらに、学生の主体的・能動的なコンピテンシー育成を促進することを目的に、令和4年度よりコンピテンシー育成支援システム（CACICA）の開発を進め、令和6年4月から学生に提供を開始した。CACICAは、①セルフチェック、②目標設定、③行動計画、④振り返りの4機能を備え、コンピテンシー育成に関するPDCAサイクルの継続的な構築を支援する。これにより、学生は大学での学びをコンピテンシーという新たな軸でデザインすることが可能となっている。本学部におけるCACICAの利用率は、利用を義務化していない中で74.4%（令和7年度）に達した。とりわけ、システム導入以降に入学した1年次・2年次における利用率は91.0%と極めて高い。また、システムに対する総合満足度も82.0%（令和7年度）と学生から高い評価を得ている。

○ コース・環における特色ある取組

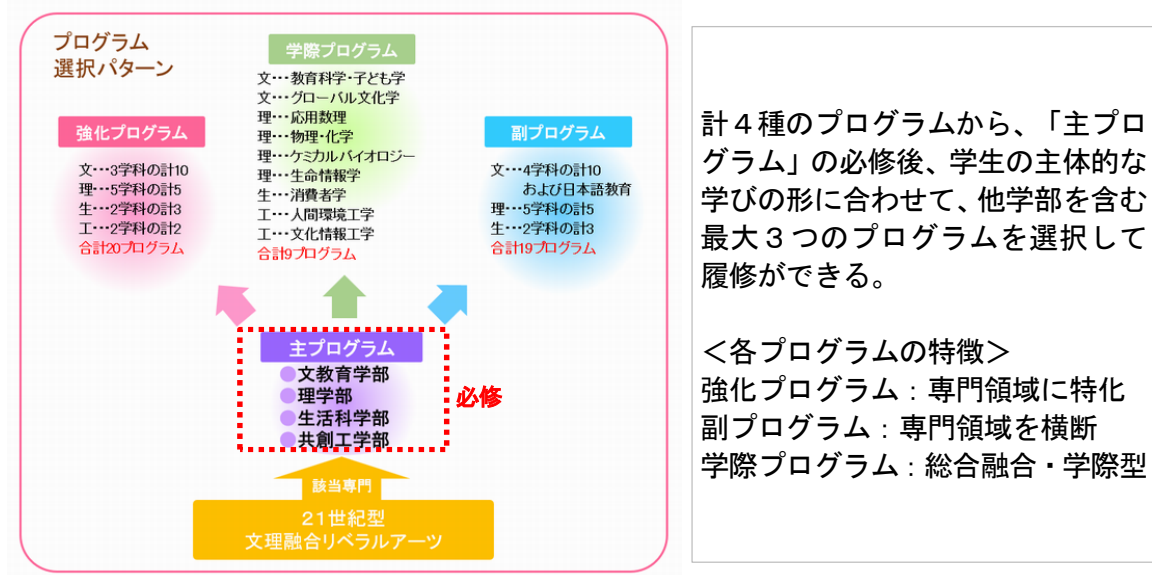
・地理学コースでは、フィールドワークを重視して情報を収集・理解する力を養うことを目指している。一例として、「地理学フィールドワーク」では、日帰り巡検を複数回実施し、企画立案から文献・地図・歴史資料の収集整理、調査項目の検討、事前学習、図表・地図・写真を含む報告書等の作成までを一体的に行い、地域の特性を現地観察とデータの両面から捉え、地図・図表等で根拠を示しながら説明・発信できる人材を養成している。学修成果として、地域調査士の資格取得者を令和4～7年度の期間に計8名（卒業者44名、取得率18.2%）輩出している。令和7年度は全認定者71名中、3名が本コースであり、地域調査分野の専門家育成に寄与している。また、派生した成果として、本コースから発足した学生団体「地理×女子」が、令和4年度には「アーバンデータチャレンジ2022 with インフラデータチャレンジ2022」の一般部門で銀賞を受賞（作品名：メタ巡検ーメタパス上で行う新しいフィールドワークの提案ー）したほか、令和5年度には「令和5年度『測量の日』」において測量・地図に関する普及・啓発に顕著

な功績のあった個人・団体に贈られる感謝状を国土地理院から贈呈されている。

- ・社会学コースでは、理論的・実証的手法により、人間の行動・意識の社会的側面と社会の構造・機能・変動を解明することを目標とし、社会問題の背景・原因を分析し、主体的に解決に取り組む力を養成している。第4期では実証的な研究スタイルを重視し、社会調査法を必修とした「観る・触れる・分析する」学修を展開しており、質問紙調査やインタビュー調査等により様々な角度から「社会」を分析する機会を提供している。学習成果として、社会調査士資格の取得者は令和4～7年度は25名（卒業者57名中、取得率43.9%）であり、令和3年度の取得率30.0%と比較して高い水準を示している。
- ・舞踊教育学コースでは、舞踊を核にスポーツや日常動作まで含む身体活動・表現を、実践を通して多角的・総合的に探究する点を特色とする。第4期は、海外機関との連携により、異文化に根差した身体表現を学習・実習する機会を学生に提供した。プラハ国立芸術アカデミー音楽舞踊学部舞踊専攻とは、協定に基づくスタディツアーを実施し、学生による作品上演や、英語によるディスカッション、ダンスレッスンへの参加等を通じた相互交流を継続している（令和5～7年度：学部生計28名参加）。さらに、フランス国立ダンスセンターが主催する研修 Camping（台湾の台北芸術センター等で開催）に招待校として参加し、英語でワークショップ指導と上演を担う等、国際実践力を涵養する機会を提供した（令和5年度：学部生計11名、令和7年度：学部・大学院生計10名参加）。これらの学びの成果として、本コースではコンクール等において表彰を受けている（令和4年度：1件、令和6年度：3件、令和7年度：2件、別添資料4）。
- ・グローバル文化学環では、グローバル化する世界で求められる「他者への共感力と実践力」を備えた新しい女性リーダーを育成する方針のもと、学内外の関連組織とも連携し、国際協力を巡る議論の機会提供等の取組を通じて、平和・共生・国際協力などのSDGs達成に貢献できる人材を養成している。一例として、「国際協力特論」では、国際協力・開発援助の意義が問われる現状を踏まえ、JICA等の実務を含む多様な資料・外部専門家の知見も活用しつつ、学際的思考と問題解決力を養う構成としており、JICAタジキスタン事務所長等を招いた特別講義（令和6年11月）等、令和4～7年度に国際協力の専門家6名を講師に招き、現場の課題と持続性等をめぐり議論等を行う機会を提供している。これらの成果の一端として、SDGs推進研究所の調査によれば、文教育学部全体として「海外の教育支援のボランティア活動」経験者の割合が20.8%（令和7年度）であり、一般女性の7.0%（令和4年度）と比して高い傾向を示している。

【別添資料】教育 お茶の水女子大学 文教育学部

別添資料 1： 本学独自の教育プログラム「複数プログラム選択履修制度」



出典：本学ウェブサイト (<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/popp/index.html>)

別添資料 2：「複数プログラム選択履修制度」第2プログラムの履修状況

	強化	副・学際	総計	強化	副・学際
2024 年度生	101	79 (12)	180	56.1%	43.9% (6.7%)
2023 年度生	101	84	185	54.6%	45.4%
2022 年度生	120	72	192	62.5%	37.5%
2021 年度生	97	86	183	53.0%	47.0%
第4期計	419	321	740	56.6%	43.4%

* 括弧内の数値は、他学部が開設するプログラムの選択数の内数を示す。

* 第2プログラムは2年次の2月に申請を行う。

(出典：学務課資料)

別添資料 3：授業アンケート集計結果 (令和7年度前期)

実施状況 (文教育学部・専門科目)

対象授業数	257	履修者数合計	5,214
回答授業数	257	回答者数合計	5,092
回収率	100.0%	回収率	97.7%

お茶の水女子大学文教育学部

質問項目と実績値（文教育学部・専門科目）

質問項目	最小値	最大値	学部平均	100点換算
シラバスの適切性	-50	50	32.73	82.41
内容理解	-50	50	30.95	80.64
教員の熱意	-50	50	31.50	81.19
説明工夫	-50	50	31.00	80.69
意欲喚起	-50	50	28.69	78.41
関心高揚	-50	50	30.65	80.35
評価の適切性	-50	50	31.62	81.31
平均	-50	50	31.02	80.71

* 「100点換算」は、-50～50の101段階評価の満足度調査結果を100点満点評価に換算したものの。

（出典：教学IRシステム iPPuKU（授業アンケートの学内専用フィードバックシステム））

別添資料4：舞踊教育学コースにおける学生の主な受賞等

- ・ 舞踊教育学コース3年の学生がアーティスティック・ムーブメント・イン・トヤマ2022（少人数による創作ダンスコンクール）にて特別賞を受賞（2022年9月）
- ・ 舞踊教育学コース4年の学生が東京なかの国際ダンスコンペティションの創作部門において第3位なかの洋舞連盟賞を受賞（2024年8月）
- ・ 舞踊教育学コースの学生（1～3年生の23名）が第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）にて大学創作コンクール部門で特別賞（主題にふさわしい斬新な動きの発見）を受賞（2024年8月）
- ・ 舞踊教育学コース4年の学生が、日本ダンス医科学研究会第14回学術大会において研究発表を行い、研究奨励賞を受賞（2024年3月）
- ・ 舞踊教育学コース学生（1年～3年の28名）が、第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）にて大学創作コンクール部門で神戸市長賞を受賞（2025年8月）
- ・ 舞踊教育学コース2年の学生が、横浜ダンスコレクションにて、アーキタンツ・アーティスト・サポート賞を受賞（2025年11月）

2. 理学部

(1) 理学部の教育目的と特徴 2-2

(2) 「教育の水準」の分析 2-3

（１）理学部の教育目的と特徴

理学部は、前身である東京女子高等師範学校の時代から、日本初の女性学士、博士である黒田チカ（化学）、保井コノ（植物学）をはじめ、優れた女性研究者、教育者を輩出して来た。1950年に、数学科、物理学科、化学科、生物学科の4学科を有する理学部が設置され、1990年に情報科学科が設置されて5学科体制となり、現在に至っている。上述のような伝統を有する理学部は、これまで一貫して自然界の成り立ちや現象の中に見出される普遍性を学び、物事の本質を理解する「真理の探究」という姿勢を重視してきた。その基盤の上で、「広い視野に立った基礎科学教育を行い、その教育を通じて社会の様々な領域におけるリーダーとして活躍できる女性を育成すること」を基本的理念としている。

理学部5学科の学生数は1学年120名（数学：20、物理：20、化学：20、生物：24、情報科学：36の定員）であり、小規模ではあるものの、できるだけ広い学問分野を含み、それぞれの分野で活躍している人材を教員として配置し、少数精鋭主義の下で基礎科学教育を行ってきた。一方、社会の様々なニーズに応えるため、全学的な教育改革にも参画し、文理融合リベラルアーツ教育及び複数プログラム選択履修制度に、理学部の特色を生かした取組を行ってきた。例えば、高い意欲のある学生を選抜し、個性と能力を更に伸ばしつつ、研究思考力と実践力を育成するため、「アドバンスプログラム」、「プレ卒業研究」や「卒研シフト」などのプログラムを導入している。

また、多様な目標を持つ学生に対応するため、学部3年次から大学院授業科目の履修や教育指導を受けられる6年間一貫の教育プログラム「学士・修士一貫トラック」を導入している。大学院の理学専攻とライフサイエンス専攻との連携により、「修士早期修了コース」、「海外研修・長期インターンシップコース」、「専門特化コース」の3つのコースを用意し、学生の多様な履修のニーズに応えている。

本学は2019年度に「数理・データサイエンス協力校」に選出されており、「文理融合 AI・データサイエンスセンター」を設立し、AIとデータサイエンスに関する教育部門・研究部門を設けて、「全学データサイエンス学際カリキュラム」を新設するなど、それぞれの分野についての深い学識と研究の基礎能力、及び探求力を身につけた女子学生の育成を行っている。

(2) 「教育の水準」の分析

【第4期中期目標期間に係る特記事項】※以下、【】内は関連する中期計画番号。

○ 主体的な学修「複数プログラム選択履修制度」と「文理融合リベラルアーツ」【K10】

本学の特徴として、専門教育及び教養教育に独自の教育プログラムを導入しており（別添資料）、各学部・学科の枠組みを越えた関心を持つ学生に対して多様な学習機会を提供する教育課程を編成している。令和7年度卒業生アンケート（回収率：33.1%）では、本学部の「文理融合リベラルアーツ」の満足度は89.7%、「複数プログラム選択履修制度」の満足度は71.9%と、高い満足度を示している。

○ コンピテンシーの育成【K6】【K8】

本学では令和4年度からコンピテンシーに基づく教育改革を推進し、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つのカテゴリーに属する10項目を「お茶大コンピテンシー10」として定め、令和6年度からは各授業で伸長が期待されるコンピテンシーをシラバスに明示している。さらに、学生の主体的・能動的なコンピテンシー育成を促進することを目的に、コンピテンシー育成支援システム（CACICA、別添資料2）の開発を進め、令和6年4月から学生に提供を開始した。CACICAは、①セルフチェック（コンピテンシーチェックテストの受検）、②目標設定、③行動計画、④振り返りの4機能を備え、コンピテンシー育成に関するPDCAサイクルの継続的な構築を支援しており、学生は大学での学びをコンピテンシーという新たな軸でデザインすることが可能となっている。本学部におけるCACICAの利用率は、利用を義務化していない中で75.4%（令和7年度）に達した。とりわけ、システム導入以降に入学した1年次・2年次における利用率は92.5%と極めて高い。また、システムに対する満足度も89.5%（令和7年度）と高い評価を得ている。学生からの意見聴取では、能力を視覚化して確認できる自己分析ツールは他になく、システムの利便性も高い点を評価する声が多くみられた。

○ 「数理・データサイエンス・AI教育」【K10】

本学では、データサイエンス教育への社会的な期待に応えるべく、数理・データサイエンス・AI教育を展開している（別添資料1）。令和3年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」リテラシーレベル、令和6年度に同応用基礎レベルの認定を受け、数

お茶の水女子大学理学部

理・データサイエンス・AI に関する知識の修得と体系的学びを通じて、数理・データサイエンス・AI を自ら活用できる人材の養成に努めている。理学部においては、令和7年度：延べ45名（令和6年度：延べ44名）が数理・データサイエンス関連科目を履修しており、令和4～7年度のリテラシーレベル修了者は計84名である。

○ 理系女性育成への参画・高大連携【K5】

本学は、戦略的研究組織として設置する「理系女性育成啓発研究所」において、情報・工学分野では（株）JERA、日鉄ソリューションズ（株）、BASFジャパン（株）との連携の下、理系女性人材の育成と女子中高生の理系への興味や進路選択を喚起する活動を行っている。本活動においては、情報科学科や生物学科等、各学科の教員が、当該研究所で実施する女子中高生の理系への進路選択に向けたセミナー・イベントの講師を毎年度務めている（令和7年度は4件）。さらに、本学部学生もナビゲーターを務めている（令和7年度は1件）ほか、情報科学科では「中高生のためのVR体験セミナー」を企画し、学生が本学を再現するVRを制作することを通じてVR環境を構築する（別添資料4）など、学生自身の学びを深めるとともに、女子中高生の進路選択の身近なロールモデルや理系への興味喚起として育成に参画している。

また、本学部は本学附属高等学校も含めた関東の7女子高校のスーパーサイエンスハイスクール事業にも協力しており、本学学生も参加する発表会を年に2回開催し、その評価を行っている。

○ アドバンストプログラム、プレ卒業研究、学科研修会

本学部では、高い意欲のある学生を選抜し、個性と能力をさらに伸ばしつつ、研究志向の実践力を育成することを目的としたアドバンストプログラム及びプレ卒業研究を行っている。各取組では、具体的目標として学会発表またはコンテスト参加（受賞）を設定し、活動を行うことを掲げており、前年度に優れた成果を上げた学生を毎年度表彰している。令和7年度（令和6年度に実施した研究）は、アドバンストプログラム優秀研究賞4件（9名）、プレ卒業研究優秀研究賞2件（2名）が受賞した。

その他、物理学科、化学科では、秋に学科研修会を開催し、4年生が卒業研究に向けた研究発表の機会を早い段階でもち、また3年生以下の学生が研究発表会に参加することで自身の卒業研究に対する方向性を決める場を設けている。

○ 日韓3女子大学交流合同シンポジウム

国際的に活躍する女性リーダー育成の一環として、本学、梨花女子大学校（韓国）、日本女子大学の3女子大学が合同で理系学生の研究発表会を毎年度開催している。令和7年度は本学を会場として開催した（参加学生計70名）。本学部からは、学生15名（化学科2名、物理学科5名、生物学科7名、数学科1名）が参加し、3日間で口頭発表やポスターセッションを実施した。参加する学生は、口頭発表練習として「プレゼンテーション法研究」又は「アカデミック・プレゼンテーション（理系）」を履修することにより、発表能力及び英語力を向上させている。

○ 教育研究の指導体制、進路【K18】

本学部の女性教員の比率は第3期中期目標・計画に引き続き高く、専任教員に占める女性教員の割合（令和4～7年度の4年間）は、学系別（理学系）の平均値：10.3%を大きく超え26.4%（学系内2位）となっており（指標番号E07）、女性固有のライフスタイルやキャリアパスに配慮した教員配置が行われ、確実な基礎力と高い専門性をもった女性研究者の養成を実現しうる教育体制を備えている。

こういった環境の下で、本学部では大学院博士前期課程への進学者も多く、令和4年度の67.4%から令和6年度には73.1%に進学者数の割合は増加し、令和4～6年度平均は73.5%（指標番号E11）となっている。大学院修了後を含めて、社会での卒業生の活躍の場は分野を超えて広がっており、企業（約8割）、官公庁（政府系研究所を含む）、教育機関（多くが中高教員）等、様々な業種にわたっている（指標番号E12）（別添資料3）。

○ 理学部学生の表彰等

本学部では、学習の成果として、学生が学術団体からの表彰等を受けている（令和4年度：12件、令和5年度：15件、令和6年度：8件、令和7年度：10件）（受賞事例は別添資料5）。また、（独）情報処理推進機構の「未踏ターゲット事業」（量子コンピューティング技術を活用したソフトウェア開発分野）ベーシック部門通常枠（令和4年度：2件、令和5年度：1件、令和7年度：1件）、「未踏IT人材発掘・育成事業」（令和5年度1件）等の公募事業にも採択されている。

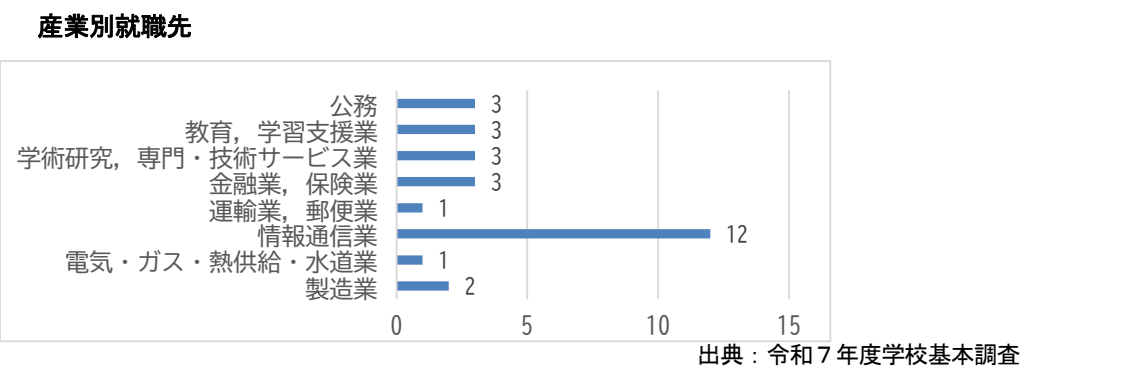
全学データサイエンス学際カリキュラム カリキュラムマップ

出典：文理融合 AI・データサイエンスセンターウェブサイト (https://www.cf.ocha.ac.jp/datascience/j/menu/curriculum/d007528_d/fil/curriculum_map.pdf)

[illegible]

お茶の水女子大学理学部

別添資料3：理学部の就職先状況（令和6年度卒業生）



学科別就職先一覧（2024年度）

※就職者が5人未満の所属に関しては個人が特定されないよう2年分記載しています。

理学部		
数学科 税理士事務所 日本電気株式会社 株式会社テレビ新潟放送網 株式会社日本総合研究所 ランドマーク税理士法人 日鉄ソリューションズ株式会社 日本航空株式会社 香川県教育委員会 東京都教育委員会	バナソニック株式会社 株式会社NTTデータ 防衛省 化学科※ 株式会社さらばし銀行 株式会社MTG 株式会社インターサーブ 株式会社ライトワークス 気象庁 株式会社日立国際電気 日鉄ソリューションズ株式会社 生物学科※ 株式会社K&G 群馬テレビ株式会社 栃木県国民健康保険団体連合会	埼玉県庁 キヤノン株式会社 特許庁 コムテック株式会社 有限会社春幸堂 株式会社NTTドコモ 情報科学科※ 株式会社プロシッパ 株式会社NTTデータグループ マツキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン 住友林業情報システム株式会社 株式会社福岡銀行 日立製作所株式会社 株式会社数理計画

出典：大学案内 2026

別添資料4：中高生のためのVR体験セミナー

第6回
中高生のためのVR体験セミナー

VR（バーチャルリアリティ）は我々の生活を大きく変える技術として期待されています。このセミナーでは、中高生の参加者の情報にインターネット上でVRを体験してもらいながら、最先端の最新技術、理系に志望した大生の役割を紹介します。VR空間での体験との楽しみ別談話を楽しみにしています。

お茶の水女子大学 大学講堂『微音堂』の空間をVRで体験できます！

司会：伊藤 真之（お茶の水女子大学 基幹研究助教授、立憲議心AI・データサイエンスセンター長）
1400 開会挨拶：加藤 光砂子（お茶の水女子大学 理系女性育成推進課 所長）
1405 基幹講演：藤田 真穂子（お茶の水女子大学 理学部 数学科 准教授）
1405-1415 基幹講演：藤田 真穂子（お茶の水女子大学 理学部 数学科 准教授）
1440-1530 理系進学に関する現役学生との対談会

日時：2025年11月16日（日）14時～15時30分
※cluster（VR専用SNS）にてオンライン開催（スマートフォンPCから参加できます。）
対象：中学生・高校生
主催：お茶の水女子大学理系女性育成推進研究所

申込み・問い合わせ先
申込フォーム
https://www14.webcanet-form.co.jp/ocha/20251116
075-3117-133（※当日に利用可能となります）
お茶の水女子大学 理系女性育成推進研究所
Email: ocha-cs@kaiyo.ocha.ac.jp TEL: 03-6978-5825 FAX: 03-6978-2050

学生が、VR 専用の SNS 「cluster」を用いて、大学講堂「微音堂」を模した空間や大学構内を再現。参加者は自分のアバターを操作して講演等を体験した。

別添資料5：授業から派生した学生の受賞事例

- 令和4年度開講授業「アントレプレナーへの道」及び「総合コース」において編成した学生チーム（本学部1名を含む3名で編成）が、第13回ビジネス創造コンテスト（主催：（財）品川ビジネスクラブ）においてファイナリスト賞、品川区特別賞を受賞（令和5年9月、受賞したアイディア：シチュエーションまで試着する「my 試着室」）。

3. 生活科学部

- (1) 生活科学部の教育目的と特徴 3-2
- (2) 「教育の水準」の分析 3-3

お茶の水女子大学生活科学部

(1) 生活科学部の教育目的と特徴

本学部は 1950 年に家政学部として開設され、1992 年に生活科学部へと改組した。2024 年 4 月には、共創工学部の新設に伴い人間・環境科学科が募集停止となり、定員は共創工学部に移行した。現在、生活科学部には自然科学系の食物栄養学科（及び 2023 年以前の入学学生が所属する人間・環境科学科）と人文・社会科学系の人間生活学科及び心理学科が設置されており、文理融合型の構成を学部の特徴としている。

本学部は、人間らしい豊かで健康な生活とはなにか、異なる人々との共生にどう対応していくのか、人間生活の質的・量的な豊かさをどう調和・融合させていくことができるかな等を検討すべき中核的テーマとしており、「自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身に付け、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成すること」（出典：学則第 6 条第 1 項）をその目的としている。また、生活科学部各学科の目的（出典：学則第 6 条第 2 項）は以下のとおりである。

- ① 食物栄養学科：人間の「食」を自然科学的かつ総合的に捉え、豊かな食生活や健康な社会を実現するために、食物と栄養について科学的知識と実践的能力を備えた人材を養成する。
- ② 人間生活学科：人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた優秀な人材を養成する。
- ③ 心理学科：心理学に関する基礎から実践までの多面的な知識と理解力を有し、科学的エビデンス、論理的分析力に基づく臨床・応用実践、社会的課題にセンシティブな実証的探求の視点や実践的能力を獲得できる人材を養成する。

本学部の使命は、時代の流れを敏感に捉えながら、人間と生活について総合的に見つめなおし、現代にふさわしい価値と基準の創出を目指し自立する人材を育成することである。そのため、生活を取り巻く様々な課題・問題や社会が抱える現実的問題を、生活者の立場から、また幅広い視点から実践的に解決することのできる専門性の高い人材を養成する。

現代は科学技術の発展や急速な経済成長の一方で、少子高齢化、ワークライフバランス、対人関係上の諸問題、生活習慣病へのアプローチ等、本学部に解決が期待される課題が多く存在する。これら個々の問題について、生活者の視点から、また、環境や社会との文脈の中で総合的かつ実践的に取り組み、解決を目指すことが生活科学部の特徴である。

（２）「教育の水準」の分析

【第４期中期目標期間に係る特記事項】※以下、【】内は関連する中期計画番号。

○ 主体的な学修「複数プログラム選択履修制度」【K10】

本学の特色として、教養教育及び専門教育に独自の教育プログラムを導入しており、各学部・学科の枠組みを越えた関心を持つ学生に対して多様な学習機会を提供する教育課程を編成している。令和６年度から「複数プログラム選択履修制度」（別添資料１）では他学部が第２プログラムとして開講する科目が選択できるよう改善し、幅広い分野の学修が可能となった。令和７年度（改善後に初めて第２プログラムを選択する２年生）は他学部から計１１名が本学部の開講するプログラムを選択している。また、学際的要素を持つ人間生活学科生活社会科学講座では、約２５％が自身の所属以外が開講するプログラムを履修した（令和７年度４年生）。一方で、本学部の学生は専門を深化して学ぶ強化プログラムを選択する傾向（２年の選択時：約８４．５％）にあり、一部の学科・コースでは４年一貫制の専修プログラムを開設し、より専門領域に特化した修学を実施している点も特徴である。本学部では食物栄養学科が専修プログラム制を採用している（別添資料２）。その他、本学部が開設する「消費者学学際プログラム」は、生活文化や消費者問題の歴史を知り、政策動向を理解した上で、消費社会の複合的問題に主体的に向き合うことを趣旨とする本学部の特徴あるプログラムである。令和７年度は他学部１名を含む計６名が選択した。

○ 「数理・データサイエンス・AI教育」「アントレプレナーシップ教育」【K10】

本学では、データサイエンス教育への社会的な期待に応えるべく「全学データサイエンス学際カリキュラム」（文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定）を展開しており、令和７年度は本学部から１４名が関連科目を履修、リテラシーレベルの修了者は令和４～７年度計４４名となった。

アントレプレナーシップ教育では、企業等から講師を招いてグループで課題解決に取り組むPBL型授業等の開講により女性アントレプレナー育成を推進しており、本学部からは令和７年度は３２名が受講している。「総合コース（アントレプレナー）」では、講師を生活科学部の卒業生である現役の起業家（一例として（株）MYコンパス代表取締役）が担当した。本授業の成果は大阪・関西万博ウーマンズパビリオンWA812において、教育、政治、キャリア、子育て、サステナブル、性別ガチャなどを題材として、３セッションで学生チームが発表するに至った（令和７年度履修学生数：計１９名、うち本学部：９名）。

○ コンピテンシーの育成及びキャリア支援・キャリア教育【K6】【K7】【K8】

お茶の水女子大学生生活科学部

本学では令和4年度よりコンピテンシーに基づく教育改革を推進し、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つのカテゴリーに属する10項目を「お茶大コンピテンシー10」として定め、令和6年度には履修により伸長が期待されるコンピテンシーをシラバスに明示している。さらに、学生の主体的・能動的なコンピテンシー育成を促進するため、令和4年度よりコンピテンシー育成支援システム（CACICA、別添資料3）の開発を進め、令和6年4月から学生に提供を開始した。CACICAは、①セルフチェック（コンピテンシーチェックテストの受検）、②目標設定、③行動計画、④振り返りの4機能を備え、コンピテンシー育成に関するPDCAサイクルの継続的な構築を支援する。これにより、学生は大学での学びをコンピテンシーという新たな軸でデザインすることが可能となっている。本学部におけるCACICAの利用率は、利用を義務化していない中で80.0%（令和7年度）に達した。とりわけ、システム導入以降に入学した1年次・2年次における利用率は97.2%と極めて高い。また、システムに対する満足度も87.2%（令和7年度）と高い評価を得ている。学生からの意見聴取では、能力を視覚化して確認できる自己分析ツールは他になく、利便性も高い点を評価する声が多くみられた。

○ SDGs 教育【K3】

令和4年度に本学のSDGsの実践活動を統合する拠点としてSDGs推進研究所を新設、社会全体でのSDGsの達成に向けた人材養成を行っており、SDGsに関心の高い学生が「OCHA-SDGs 学生委員会」として持続可能な社会への貢献を目指した活動を推進している。生活に根差した分野として学生の関心も高く、学生委員の半数近くを本学部学生が占める（令和4年度：21名/45名、令和5年度：12名/21名、令和6年度：11名/32名、令和7年度：17名/46名）。学部と連携した取組の一例として食物栄養学科学生により設立されたサークル「Ochas」がOCHA-SDGs 学生委員会と連携してプラントベースドフードメニューを開発し、学内の生協食堂で販売した（令和5年度～、第1～5弾、別添資料4）。

○ 教育研究の指導体制【K18】

生活科学部では、専任教員あたりの学生数が令和7年度：14.3名（指標データE06）であり、小規模な学科・講座単位をベースにきめ細かな指導を行っている。とりわけ本学部の専任教員の女性比率は令和4～7年度平均：64.3%（学系内1位）であり、学系別（総合融合系、学士課程）の平均値：21.6%の約3倍、全学系（学士課程）の中でも2位である（指標番号E07）。女性がマイノリティである学問分野においても女性教員が多い環境は、本学部の女子学生にとって、学問を学ぶのみでなく、ライフスタイルやキャリアパス

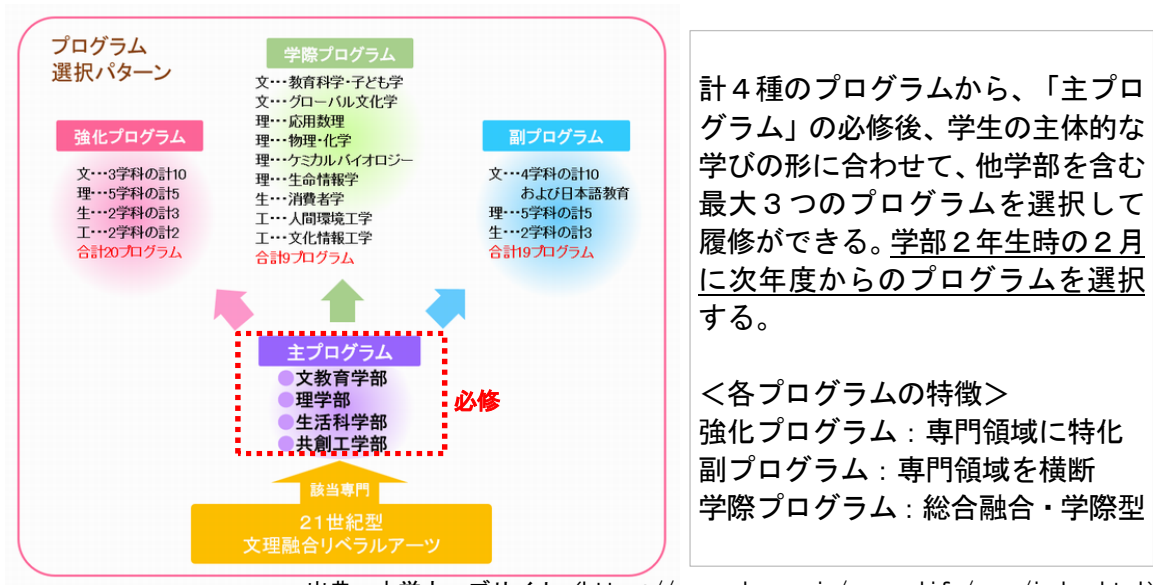
の身近なロールモデルを得る上でも適したものになっている。こういった環境の中で、生活科学部の令和4～6年度の大学院博士前期課程進学者の割合は平均 38.3%（指標番号 E11）、各学科とも大学院への進学者も多く、特に食物栄養学科では約3分の2が進学している（令和6年度：食物栄養学科 66.7%（24名/36名）、人間生活学科 21.9%（7名/32名）、心理学科 20.5%（8名/39名））。本学部は理系・文系の枠を横断し人間と生活を探求する学部であり、卒業後の進路として、食物栄養学科は管理栄養士の免許を取得して官公庁や食品関連メーカー、病院、学校関係などに、人間生活学科は教員や、各自の専門性を活かして民間企業に、心理学科は心理職をはじめとする公務員や民間企業などの就職がみられる。就職者の割合（進学率除く）は平均 53.5%（指標番号 E12）であり、良好な状況にある。また、教育環境の整備についても随時、学生の学習環境を向上させるよう配慮している。たとえば心理学科では、学習効率向上や心身健康増進のため、令和6年度に学生控室を新設しており、自習、懇談など学生の居場所として活用されている。

○ 教育方法の組み合わせによる多様な学修機会の提供

文理にまたがる学際性と実践性を特徴とする本学部では、様々な学問への関心を広げるオムニバス形式の授業や、専門分野をインテンシブに学ぶ演習など多彩な授業を開講しており、目的・目標に応じ、講義と演習・実習・実験を組み合わせた形態をとっている。特に学部の名称となる「生活科学」は学際型の文理融合総合応用科学であり、その学際性を体現する特徴的科目として「生活科学概論」（令和7年度履修者：77名）を開講している。これは各学科からの担当者が生活に関わる共通課題についてオムニバス形式の講義を展開する講義であり、第4期中期目標期間においても「からだ」「AI」「時間」などのテーマによる様々な講義内容が展開された。また生活科学部では、家庭科教員免許資格、博物館学芸員資格、食品衛生管理者資格、栄養士資格及び管理栄養士国家試験受験資格、公認心理師国家試験受験資格などの免許取得や、留学やインターンシップといった多様な学習機会を提供している。例えば生活社会科学講座が毎年開講している「生活社会科学実習」（令和7年度履修者：4名）では、いずみナーサリーをはじめ、訪問看護ステーションや消費者団体など、個人では応募が難しいインターンシップ先と連携し、大学での学びと現場での実践の関係性を思索・探求する機会を提供している。学びの成果事例として、人間・環境科学科と人間生活学科では、CSR 構想インターゼミナール（経営倫理について学生の興味喚起を目的として開催。後援：日本経営倫理学会）において、受賞者を輩出している（令和4～5年度：最優秀賞・学生賞、令和6年度：学生賞、令和7年度：最優秀賞）。

【別添資料】教育 お茶の水女子大学 理学部

別添資料 1： 本学独自の教育プログラム「複数プログラム選択履修制度」



出典：本学ウェブサイト (<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/popp/index.html>)

別添資料 2： 生活科学部 カリキュラムツリー例（人間生活学科及び食物栄養学科）

生活科学部
人間生活学科
カリキュラムツリー

生活文化学プログラム

分野

主プログラム

強化プログラム

分野	主プログラム			強化プログラム	
	講義		実習・演習	講義	実習・演習
1年次	生活文化学概論 生活科学概論 生活社会科学概論 被服学概論	児童学概論 人間生活論 生活造形論 民俗学	服飾文化概論 比較生活文化論 家庭看護学 保育実践論		
2年次	服飾史論 服飾史資料論 比較生活文化史Ⅰ 比較生活文化史Ⅱ 民俗文化史論 歴史民俗文化論	保育デザイン論 発達と文化 服飾史Ⅰ 服飾史Ⅱ	被服製作実習	生活文化学専門英語 民俗文化史各論 環境デザイン論 美学・芸術学 生活文化論 生活造形史 工芸史	服飾制作実習 服飾文化実習 生活文化実習 民俗文化史演習 服飾文化論演習 日本服飾史演習 保育デザイン論演習
3年次			比較文化論基礎演習 民俗文化史基礎演習 日本服飾史基礎演習 服飾文化論基礎演習 保育デザイン論基礎演習	地域文化論 現代文化論 文化情報論 西洋服飾論 日本服飾論	比較文化論演習 LIDEE演習※
4年次	卒業論文		生活文化学論文演習Ⅰ 生活文化学論文演習Ⅱ	服飾文化各論 生活芸術論 児童文化論	

※ I LIDEE: Life innovation by Design & Engineering Education ワークショップ型のデザイン演習授業

生活科学部 人間生活学科 カリキュラムツリー

生活社会科学プログラム

分野	主プログラム	強化プログラム			
	講義	法学・政治学	経済学	社会学	ジェンダー研究
1年次	生活社会科学概論 人間生活論 家族関係論 ジェンダー論 応用生活統計学 社会保障論				
2年次	生活社会科学演習 社会統計学 生活社会学 生活政治学 家政経済学概論 消費者経済学	生活と行政 生活法学 財産と法 労働法 刑事法 イタリヤ法史 など	生活経済学 労働経済学総論・各論 企業経営論 生活と財政 生活と金融 消費者教育論 国民経済と生活 国際経済と生活 など	社会福祉学 児童福祉論 地域社会学 老年学 人口学 生活調査法 生活社会調査実習 など	女性政策論 政治とジェンダー 比較ジェンダー論 法女性学 など
3年次	演習Ⅰ 演習Ⅱ 家族社会学				
4年次	卒業論文				

お茶の水女子大学生活科学部

生活科学部 食物栄養学科 カリキュラムツリー

食物栄養学専修プログラム



分野	専修プログラム		
	講義	実習・演習	
1年次	食物栄養学入門 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ	調理科学 基礎有機化学	基礎調理実習
2年次	細胞生化学 臨床医学総論 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ 生活環境学 食品製造・保存学 食品微生物学 分析化学 代謝栄養学	社会福祉学 臨床栄養アセスメント学 栄養教育論Ⅰ 給食経営管理論 栄養カウンセリング論 応用栄養学 食品化学 食嗜好評価学	応用調理実習 分析化学実験 解剖生理学実験
3年次	公衆衛生学 ライフステージ栄養学 病態栄養学 給食マネジメント論 食品機能論 食品衛生学	ライフスタイル栄養学 臨床栄養療法学 栄養疫学・統計 栄養教育論Ⅱ 栄養カウンセリング論 食事療法学	食品微生物学実験 食品製造・保存学実験 食品化学実験 栄養学実験 調理科学実験 臨床栄養アセスメント学実習
4年次	食物栄養学特講	卒業論文	食物栄養管理論総合演習Ⅰ 栄養臨床実習Ⅰ 栄養カウンセリング論実習 給食経営管理実習 応用栄養学実習 公衆栄養学実習

※ 栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる4年一貫の専修プログラムを履修します

※ 必要に応じて副プログラム、学際プログラムも履修できます

出典：本学ウェブサイト (https://www.ocha.ac.jp/program/curriculum_tree/undergrad.html)

別添資料3：コンピテンシー育成支援システム（CACICA）画面例

「過年度結果」の表示を追加
あなたのコンピテンシーの状況 (結果別)

今年度結果の平均値との比較

「平均値」の表示を追加

「定義」と「説明」を追加

「動画」と「PDF」へのリンクを追加

2024年度 私のコンピテンシー育成記録

2023年度 私のコンピテンシー育成記録

2024年度 活動計画

2024年度 活動振り返り

出典：コンピテンシー育成開発研究所 令和6年度年次報告書

別添資料4：Ocha-SDGs 学生委員会及びOchas が考案したプラントベースドメニュー例

おなかぽかぽか
ライスミルクの
がぼちスープ
231円(税込)
99kcal

1回25食
限定!

野菜たっぷりヘルシー
ライム・ホールの
甘酢炒め
352円(税込)
205kcal

期間限定
12/14(月)～12/22(金)
アンケートに関するアンケートに
参加した方にInstagramをチェック!
#OCHA_PLANTBASED

第1弾

PlantBasedMenu

ほっこりぽかぽか
しょうが香る
ソイミートの
水餃子スープ
330円(税込)

1/29(月)
～3/1(水)
1回15食

野菜たっぷり

第2弾

ベジタブル食に関するアンケートについて
方はInstagramをチェック!

plant based menu

さっぱり!
色とりどり
夏野菜の
冷製豆腐うどん
495円
500kcal 7食分限定

大胡瓜と夏野菜の
甘味噌炒め
275円
243kcal

期間限定
7/22月

第4弾

プラントベースがもっとおいしく
なるように応援!

4. 共創工学部

- (1) 共創工学部の教育目的と特徴 4-2
- (2) 「教育の水準」の分析 4-3

（１）共創工学部の教育目的と特徴

本学部は、工学と人文学・社会科学を協働させ新たな技術や文化、すなわちモノやコトを考案・想像することを目的とする新しいコンセプトの工学部として、令和６年４月に開設した。本学部はその目的を「多様性を包摂し持続可能で豊かな文化を有する社会の実現に向け、工学と人文学・社会科学の協働の意義を理解した上で、人間中心の新しい技術や文化を共創できる人材を養成する」（出典：学則第６条の２）こととしており、自然科学を基礎とし、社会と対話しながら新しい技術を実装・普及する人間環境工学科と、データサイエンスの手法を活用し、人文学・社会科学と工学を協働させて新しい文化や価値を創り出す文化情報工学科の２学科で構成されている。

本学部の特色は、「共創工学」という学部名称にも込められているとおり、工学と人文学・社会科学の知が協働し、共に未来の環境、社会、文化を創り出していくことであり、協働に大きな役割を果たすものとしてデータサイエンスの手法を活用している。分野ごとに最先端の技術を進化させ極めていく従来の工学と異なり、これからの未来社会を創造していくためには、専門的な知識（専門知）のほかに、社会的な課題を発見し（発見力）、解決策を考案する（発想力）だけでなく、それを具現化（デザイン力）、社会との対話によって（対話力）普及させるための、各能力を備えることが重要であるとして、本学部では、社会実践力を養う特色ある科目（PBL（Project Based Learning）科目等）など、これらの能力を涵養するプログラムを設けている。

各学科の特色は以下のとおりである。

1. 人間環境工学科：本学科は、生活科学部人間・環境科学科から移行して設置された。人間と社会に密接に関わる課題として、人の生活・医療・健康を守る「人間領域」、建築や都市・インフラなど安全に関わる「環境領域」、生活材料や医療で利用される材料の開発に資する「マテリアル領域」の３領域を扱い、工学専門知と社会科学知の協働により、持続可能な社会の構築に向けたイノベーションを目指している。
2. 文化情報工学科：本学科は、人文知に工学を協働させることにより生み出される人間の文化を尊重する新しいタイプの工学を扱っている。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、歴史、思想などに関する多種多様な情報をデジタル化（収集・生成・可視）し、分析を行い、新たな作品や作品を創出するものであり、工学と人文学の双方を学ぶことができる。

(2) 「教育の水準」の分析

【第4期中期目標期間に係る特記事項】※以下、【】内は関連する中期計画番号。

○ 共創能力の育成と「共創工学学修ポートフォリオ」(別添資料1) 【K9】

本学部は、従来の技術開発を中心とする工学と異なり、社会課題の解決を企図する社会イノベーションや、社会を変える文化の創造に資する文化イノベーションを目指す、新しい工学を学ぶ学部として発足した。共創を実現する5つの力を「共創能力」として、「専門知」に加え、「発見力」「発想力」「デザイン力」「対話力」を設定し、これらを育成するため学部独自の共通科目を備えている。シラバスにおいては、授業の実施回数ごとに育成できる力を明示している。また、学部の4年間を通じて共創能力の育成を支援するため、共創工学共通科目を中心に、教員からの評価と学生の自己評価によるルーブリック評価を導入しており、コモン・ルーブリックを基に科目別ルーブリックを作成して学生に提示している。さらに、学修成果や共創能力の評価結果を示すものとして、「共創工学学修ポートフォリオ」を導入し、学生が自己の学習ポリシーやこれまでの作成課題等の蓄積を確認できるだけでなく(自己評価)、学内教員、学生、学生が選択した他者からも閲覧できる(他者評価)こととした。同ポートフォリオと授業アンケート・成績評価システム(iPPuKu)を元に毎年度9月に教員が学生と個人面談を実施、ポートフォリオ評価とそれに基づくフィードバックを行っており、オンラインと対面面談の組み合わせにより学生の能力向上を支援している。5つの各能力はルーブリック評価で段階的に明示され、卒業まで評価を可視化し、次の目標や課題の発見につなげることができる。こういった丁寧な指導の実践により、本学部の学びに関する学生の満足度について、「大変満足、おおむね満足、満足」の合計で、令和6、7年度ともに目標値の70%を10%以上上回る高評価を得た。

○ コンピテンシーの育成【K6、K8】

本学では令和4年度よりコンピテンシー育成開発研究所を新設し、コンピテンシーに基づく教育改革を推進している。「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマに対処する力」、「責任ある行動をとる力」の3つのカテゴリーに属する10項目を「お茶大コンピテンシー10」として定め、令和6年度からは各授業で伸長が期待されるコンピテンシーをシラバスに明示している。さらに、学生の主体的・能動的なコンピテンシー育成を促進することを目的に、令和4年度よりコンピテンシー育成支援システム(CACICA)の開発を進

お茶の水女子大学共創工学部

め、令和6年4月から学生に提供を開始した。CACICAは、①セルフチェック（コンピテンシーチェックテストの受検）、②目標設定、③行動計画、④振り返りの4機能を備え、コンピテンシー育成に関するPDCAサイクルの継続的な構築を支援する。これにより、学生は大学での学びをコンピテンシーという新たな軸でデザインすることが可能となっている。本学部におけるCACICAの利用率は、利用を義務化していない中で94.9%（令和7年度）に上る。本学部では毎年学生と個別相談の機会を設け、個々のコンピテンシー育成について教員と共有するとともに以後の履修プログラムについてのアドバイスを行っており、上述の中期計画目標値の70%を大きく超える非常に高い満足度へと結実している。

○ 教育研究の指導体制【K18】

本学部の専任教員の女性比率（2024～2025年度）は38.6%と、学系別（工学系、課程区分：学士）の平均値約8.7%の4倍超となっており、学系内1位である。女性人材の不足が全国的な課題となっている工学分野において、女性教員が多く存在する環境は、本学部の女子学生にとって、学問を学ぶ上のみでなく、ライフスタイルやキャリアパスの身近なロールモデルを得る上でも適したものになっている（指標番号E07）。

○ ジェンダード・イノベーション、アントレプレナーシップ、データサイエンス教育【K10】

第4期中期目標期間のビジョンとして、本学はセックス／ジェンダー差分析に基づく知識の再検討（ジェンダード・イノベーション）を通じた、真のイノベーションの創出を掲げている。その取組の一環として、「女性イノベーター」の育成を目指し、ジェンダード・イノベーションに関するアイデアを製品やサービスに変えるための方法を学ぶ授業（「ジェンダード・イノベーション入門」、「アントレプレナーシップ演習」）を開講している。学生・教職員が参加可能なセミナーとして実施した「建築学から見たジェンダード視点でのイノベーションのアプローチ女性起業家の働き方・働く場所の調査よりー」（令和6年6月）は、本学部教員が携わるジェンダード・イノベーションに関する知見を取り入れた教育の一例である。また、学外企業のファシリテーションによりアントレプレナーシップの基礎となるマインドセットなどを体験型で学ぶことができる科目「社会共創マネジメントPBL」を、他学部の学生も受講可能な科目として開講している。

さらに、数理・データサイエンス・AI教育では、令和6年度の学部開設から令和7年度までの2年間で、52名（52.5%）がリテラシーレベル（文科省認定）を修了した。

○ 共創工学部の特色ある授業科目（フィールドワーク、ワークショップ、特別講義）【K9】

本学部では共創を実現する5つの力として、「専門知」に加え、「発見力」「発想力」「デザイン力」「対話力」を育成することとして、学部独自の共通科目を設定している。ロジックモデルによって目的を達成するまでの因果関係を考察し、思考する力を身に付ける「デザイン思考とロジックモデル」、夏期休暇期間に集中的に80時間（2週間程度）のインターンシップを行い、社会での実践を通じて上記5つの力を活用する経験を積む「共創インターンシップⅠ・Ⅱ」、ワークショップ型教育として、社会的な課題を設定し、異なる学年の学生によるグループワークを行うほか、多様な企業・分野の専門家も交えたディスカッションや専門家レクチャー、現地見学等を行う「共創デザインPBL（LIDEE 演習）」、プログラミング言語 Python を用いて実践的なプログラミング能力を身に付ける「共創プログラミング」といった、特色ある科目を開講している。また、一級建築士、二級建築士の受験資格、博物館学芸員、GIS 学術士、地域調査士の資格取得に必要なカリキュラムも用意している。以下に、授業の実施事例を記載する。

＜LIDEE＞生活に新たな価値を創造するイノベーション教育プログラム：LIDEE（Life Innovation by Design & Engineering Education）科目で実施する問題解決型ワークショップでは、湖西市水道課と共催した「ナッジを用いた行動変容サーベイの実践」や池袋駅西口地区市街地再開発準備組合、三菱地所（株）、（株）三菱地所設計と連携した「池袋駅西口地区のまちづくり・将来像」等の多様な題材を扱っている。池袋エリアのまちづくりについては、本学部教員及び研究室がまちづくり協同体「池袋エリアプラットフォーム」に参画しており、「快適なまち歩き空間」を目指す社会実験等に協力している。

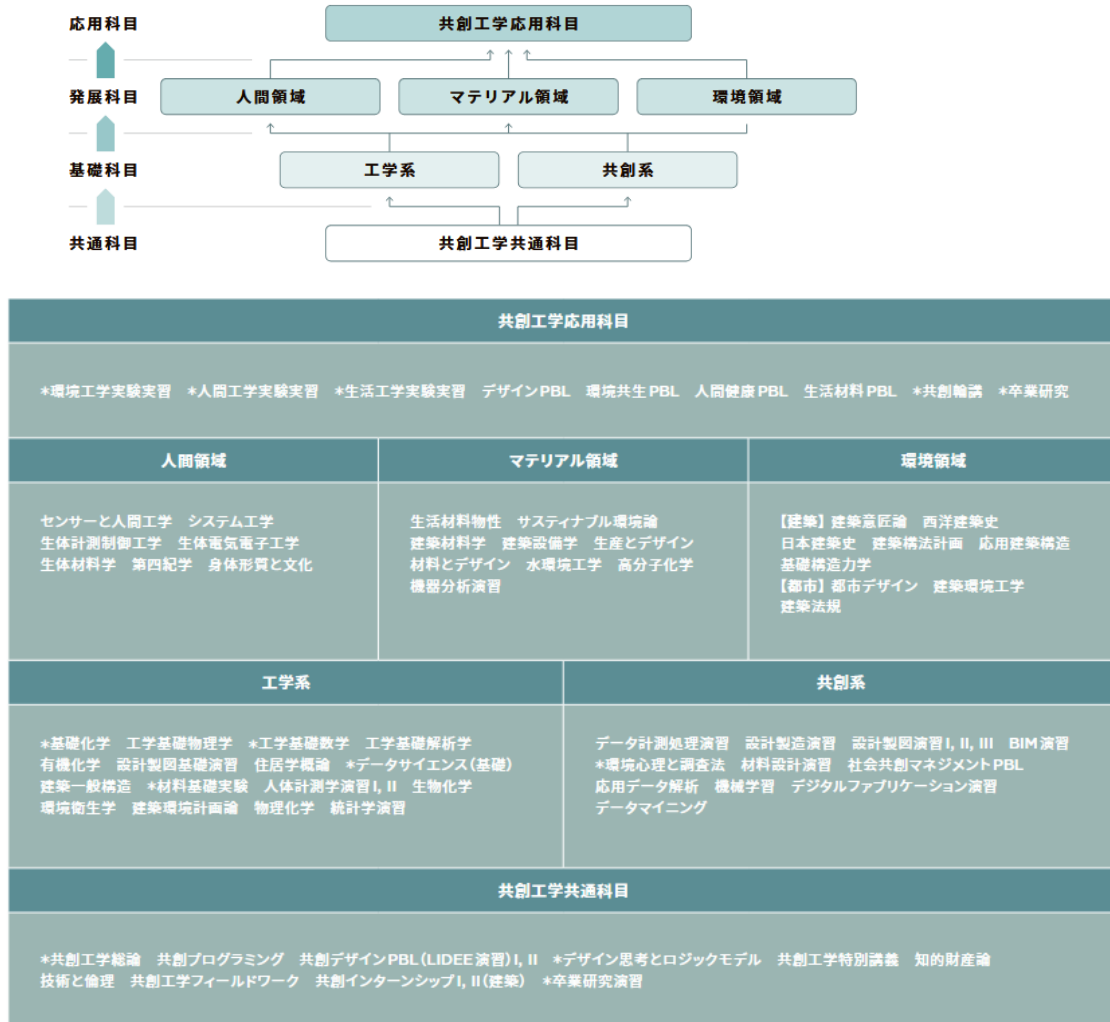
＜フィールドワーク＞フィールドワーク科目では、パナソニック コネクト（株）、（株）牧野フライス製作所等、企業からの協力を得て、工場施設の見学や実務者の対話を行うことで、モノづくり・コトづくりの現場に触れる体験ができる場を設けている。

＜共創工学部特別講義＞特別講義として、社会の現場で実際に問題解決に携わった専門家からプロセスや経験を共同ワークショップ形式で学ぶ機会を設けている。メーカー、AI 関連、行政、コンサルタント、通信関係、博物館・美術館等、題材とする分野は多岐にわたっており、令和7年度は、鉄道総合技術研究所(国立市)における社内快適性に関する鉄道技術を題材としたプログラム、（株）primeNumber による社会におけるデータ活用を題材としたプログラム等、計8回を開催した。

【別添資料】教育 お茶の水女子大学 共創工学部

別添資料 1 共創工学部のカリキュラム

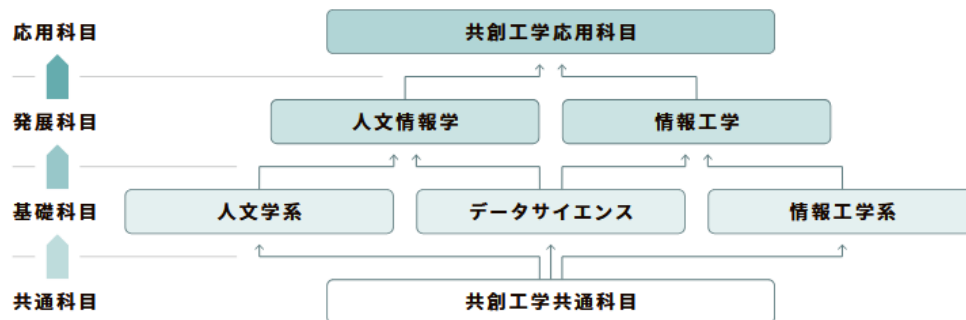
■人間環境工学科



*は必修科目

※ 副・学際プログラムとして文化情報工学学際プログラム(共創工学部が開設)、情報科学副プログラム、生命情報学学際プログラム(理学部が開設)、消費者学学際プログラム(生活科学部が開設)を選択することも可能です。

■文化情報工学科

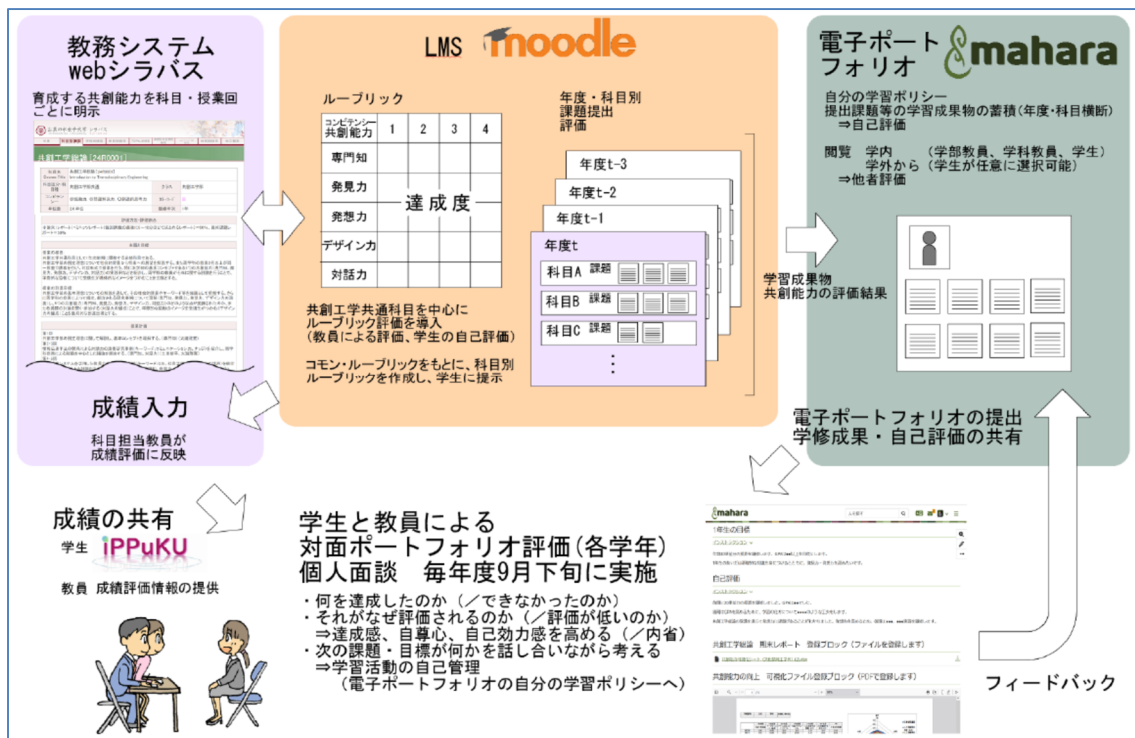


お茶の水女子大学共創工学部

共創工学応用科目		
*データマイニング演習 文化情報学研究 テキストアナリティクス研究 データベース研究 文化情報デザイン研究 文化情報CGV研究 文化情報統計数理研究 *卒業研究		
人文情報学	情報工学	
歴史情報学 歴史情報学演習 地理情報学 地理情報学演習 言語情報学 言語情報学演習 文化情報学 文化情報学演習 思想情報学 思想情報学演習 芸術情報学 芸術情報学演習	データ解析序論 統計学演習 センサーと人工工学 応用統計学演習 コンピュータビジョン コンピュータグラフィックス ヒューマンインターフェイス 文化情報デザイン演習 データベース設計演習	
人文学系	データサイエンス	情報工学系
哲学基礎論 倫理学基礎論 美術史基礎論 日本史概説 アジア史概説 西洋史概説 自然と人間 人間と空間 日本文学概説 日本語学通論 中国現代文学史 中国古典文学史(宋～清) 英語圏言語文化入門Ⅰ(2) 言語学入門Ⅰ(1)(2), Ⅱ コーロッパ言語文化論Ⅰ, Ⅱ 日本語教育学概論Ⅰ 人間と発達 社会学総論 子ども学総論 舞踊学概論 音楽学概論 グローバル文化学総論	*データサイエンス(基礎) *データサイエンス(中級) *データサイエンス(上級) *機械学習 *データマイニング	*文化情報工学基礎演習 工学基礎数学 工学基礎解析学 設計製図基礎演習 *インターネット工学 コンピュータシステム序論 データ構造とアルゴリズム 数理基礎論 確率序論 コンピュータアーキテクチャⅠ, Ⅱ コンピュータネットワークⅠ マルチメディア *文化情報デザイン工学 *データベース工学 情報と職業 情報倫理
*文化情報工学総論		
共創工学共通科目		
*共創工学総論 共創プログラミング 共創デザインPBL(LIDEE演習)Ⅰ, Ⅱ *デザイン思考とロジックモデル 共創工学特別講義 知的財産論 技術と倫理 共創工学フィールドワーク 共創インターンシップⅠ, Ⅱ(建築) *卒業研究演習		

*は必修科目

別添資料2 共創工学部の学生指導（共創能力向上を支援する学修ポートフォリオ）



5. 人間文化創成科学研究科

- (1) 人間文化創成科学研究科の教育目的と特徴 5-2
- (2) 「教育の水準」の分析 5-3

(1) 人間文化創成科学研究科の教育目的と特徴

本研究科の目的は、学校教育法第 99 条の大学院の目的に沿って「高度の専門学術の応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」ことと定めている。本研究科は博士前期課程及び博士後期課程にそれぞれ 6 つの専攻（比較社会文化学専攻・人間発達科学専攻・ジェンダー社会科学専攻（博士前期課程のみ）・ジェンダー学際研究専攻（博士後期課程のみ）・ライフサイエンス専攻・理学専攻・生活工学共同専攻（博士前期課程は令和 7 年度で募集停止））を備えており、令和 8 年度からは博士前期課程に「共創工学専攻」（工学の専門性に人文・社会科学分野、データサイエンスの手法を導入）を開設した。各課程における教育目的を大学院学則において以下のように定めている。

- (1) 博士前期課程では「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うこと」を目的とする
- (2) 博士後期課程では「高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うこと」を目的とする

本研究科は、専門教育・研究を通じて、高度な職業人としての女性リーダーの育成を目指しており、先進的な大学院教育の実践を試み続けている。本研究科の教育プログラムでは、専門教育の充実を図るとともに、前期課程ではコースを横断する専攻内の必修科目を設けて、隣接領域に関する関心を高める工夫を行っている。加えて、複数の領域横断的な副専攻プログラムを設けている。研究指導においては、専門領域の教員を主指導とするが、隣接領域の研究者を副指導教員とすることが可能であり、発想の転換や新しい視点の獲得に極めて有効である。

また、グローバル化を重視し、海外の多くの大学と教育及び研究上の協定を結び交流を深めている。多様な国籍の留学生の受入れに加えて、社会人入試制度の実施など、多様な大学院生のニーズに積極的に応えている。また、出産や就労等に対応するための長期履修制度や、学内の保育施設を利用した育児奨学金制度を設けるなど、女性のライフサイクルを見据えた大学院となっている。

(2) 「教育の水準」の分析

【第4期中期目標期間に係る特記事項】※以下、【】内は関連する中期計画番号。

○ 教育研究の指導体制と学生による評価【K18】

本研究科の専任教員の女性比率は令和4～7年度平均42.9%である。学系別（総合融合系、課程区分：博士課程（前期、後期））の平均値：16.8%を大幅に上回り、同学系内2位に位置しており、本研究科の女子学生にとって、学問を学ぶ上のみでなく、ライフスタイルやキャリアパスの身近なロールモデルを得る上でも適したものになっている（指標番号E07）。本環境の下で、学生からの授業評価アンケート結果（－50～50の101段階で評価、回収率：博士前期課程92.7%、博士後期課程71.7%）は、全科目を平均して、博士前期課程では100点換算中の85点、博士後期課程では90点を超える点数を、授業内容を評価する全評価項目で得ている（令和7年度前期）。また、博士前期課程修了生に対して実施した修了時アンケート（令和7年度、回収率50.9%）では、教育全般、授業科目、研究指導すべてで学生の90%以上が満足・やや満足したと回答している（別添資料1）。

○ 大学院におけるグローバル人材育成教育【K16】 【K17】

国際的に活躍する女性人材の育成のため、大学院生を対象として2種の海外調査研究や国際学会での発表等に伴う渡航費を支援する（上限20万円又は30万円）事業を実施しており、令和7年度は計16名を支援した。語学教育、海外留学やキャンパスのグローバル化も促進しており、日本人留学生の割合は博士前期課程では令和4年度：4.2%（20名）から令和6年度：6.2%（33名）へ、同後期課程では令和4年度：0.4%（1名）から令和6年度：2.1%（6名）へと向上（指標番号E04）、留学生の割合は博士前期課程では令和4年度：6.0%（29名）から令和7年度：6.6%（36名）へと向上、同後期課程では令和4年度3.2%（8名）、令和7年度は2.9%（7名）と同程度を維持している（指標番号E03）。また、文科省「大学の世界展開力強化事業」に採択（令和7年度）されたことに伴い、インドの連携校や国内協力校と連携し、専門性・国際性・多様性を兼ね備えた理工系分野における女性グローバルリーダーの育成の取組を開始した。

○ 女性博士人材の育成（文科省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」）【K12-1】 【K13】

「お茶大アカデミックプロダクション大学院生フェロシップ」を設け、採択された学

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科

生に年額 200 万円を支給し、キャリアパス開発や修了後のポスト確保を支援した（令和 4～6 年度：採択者計 20 名、学振研究員採用等による辞退者も含む）。採用者は学会における若手優秀発表賞の受賞や国際会議での発表、論文投稿等、自ら設定した目標以上の成果を上げており、令和 7 年度に実施した追跡調査では、継続して在籍する 7 名を除く 13 名全員が採用時に聴取したアカデミア・研究職の就職等の進路希望に沿った就職先を国内外で得ている（内訳：本学研究員 4 名、国内医療機関研究員 1 名、国外大学研究員 3 名、国内企業研究員 2 名、国内大学教職員・研究員 3 名。修了以降の転職者を含む。）。

令和 6 年 12 月には「革新」×「共創」で未来を拓く女性博士育成プロジェクト「T-COCOA」が採択され（別添資料 2）、令和 7 年度は採用者 23 名に年額 260 万円を支給して支援した。T-COCOA では、TBL・PBL 型の「実業界で活躍する女性博士のためのキャリア形成特論」を必修科目として開講し、令和 8 年度と同講義では（株）東芝の協力を得て、文理融合チーム編成による PBTS（Project Based Team Study、チーム内協働により課題の発見や解決を目指す）を実施する。令和 7 年度の試行では PBTS としてアイデア創発ワークショップ（対面講義 3 回、総学習時間 17 時間：対面講義 9 時間、オンデマンド学習 3 時間、グループワーク 5 時間）を実施、全採用学生が履修した。その他、海外派遣研究やティーメイト型インターンシップ等、キャリアパス開発に関する個別支援も充実させている。

○ ライフスタイルに応じた修学支援

女性のキャリアとライフコースの両立を支援する本学では様々な学生が個々の事情に応じて学修を深めることができ、博士後期課程では社会人学生の割合は令和 7 年度 56.7%（指標番号 E02）に上り、およそ 50%程度を社会人学生が占めている（令和 5 年度を除く）。育児中の学生のための「育児支援奨学金」（本学内の附属保育施設「いずみナーサリー」の利用料を奨学金として支援）は、多様なライフスタイルをもった女性が在籍する本学ならではの特色ある制度であり、自治体で待機児童解消が進む今日においても育児と修学の両立に勤しむ学生の受け皿となっている（令和 4～7 年度利用者数：延べ 10 名）。

○ 高度情報専門人材の育成（NIAD「大学・高専機能強化支援事業」）

「大学・高専機能強化支援事業」において、情報分野における博士号を取得した女性人材の不足という社会的課題に応えるものとして、最先端の情報技術を備え、理論と実社会での応用を結びつけることができる人材の育成に取り組んでいる。令和 8 年度以降、博士

後期課程理学専攻情報科学領域の入学定員を5名増員するとともに、実務経験のある教員による企業とのニーズの摺り合わせを行い、「研究インターンシップ実習」や「DX 実践科目」などの実践的カリキュラムを導入し、最先端の情報科学分野を横断する教育・研究プログラムを展開し、学生が専門分野で卓越した能力を発揮できるよう、きめ細やかな教育と研究指導を提供することとしている。

○ 共創工学専攻の新設【K12-2】

博士前期課程の新たな専攻として「共創工学専攻」の設置（令和8年4月）が決定した。本専攻は、令和6年度に設置した「共創工学部」の理念を引き継ぎ、「工学」の専門知と「文化」「社会」の専門知、「データサイエンス」の専門知を幅広くかつ協働して学び、社会との協働を通して実践する共創能力を有する人材を養成することとしており、同専攻を博士後期課程にも設置することを目指している（別添資料3）。

○ 博士人材のキャリア支援・就職率【K12-1】 【K13】

博士人材の就職支援として、本学主催で女性博士人材と企業との交流イベント「ワークインプログレス」（学生のプレゼンセッション、企業のセミナー、個別の交流会等を実施）を毎年度開催している。令和7年度は全11団体の企業・研究機関と28名の学生が参加した。令和4～7年度に参加した学生のうち2名がこれを機に実際の就職に結びついている。また、令和5年度から実施した「女性博士06講演・懇談会」シリーズでは、アカデミアで活躍する若手女性研究者を主に招聘して経験談の講演や学生との対話を行っている。その他、中長期インターンシップや博士課程学生対象のキャリア支援イベントの開催、本学を含む13大学で構成する「博士人材育成コンソーシアム」開催のプログラム等を行っておりこれらの就職支援の成果として、令和7年度の就職率（就職希望者に占める内定者の割合）は博士前期課程では95.6%であり毎年度高水準を維持している。

○ 学生の受賞等

本学における教育研究の成果として、日本学術振興会の育志賞（令和5～6年度、計2名）をはじめとする諸分野の学術賞（第4期計258件）や、日本学術振興会特別研究員、科学研究費助成事業等の研究助成（第4期計86件）を得ている。各年度における内訳や主な実績等は別添資料4のとおりである。

【別添資料】教育 お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科

別添資料 1：修了生アンケート結果（令和7年度）抜粋

問	設問文	回答者数（回答率）			
		a.満足	b.やや満足	c.やや不満	d.不満
13	1) 教育全般	76 (56.3%)	48 (35.6%)	7 (5.2%)	4 (3.0%)
14	2) 授業科目	70 (52.2%)	55 (41.0%)	5 (3.7%)	4 (3.0%)
15	3) 研究指導	94 (70.1%)	29 (21.6%)	5 (3.7%)	6 (4.5%)

別添資料 2：女性博士人材の育成 T-COCOA

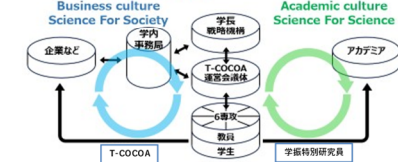
本学の取組（教育）：SPRING事業（博士後期課程）

「革新」×「共創」で未来を拓く女性博士育成プロジェクト「T-COCOA」

お茶の水女子大学では、女性博士育成プロジェクト「T-COCOA」において、PBTS型※キャリア授業を2025年度から必修科目として実施する等、「革新」×「共創」力を備えた人材育成に取り組んでいる。
（参加院生26名：D1(9), D2(9), D3(8)）
※Project Based Team Study (PBTS)

●コンセプト●

世界の人々と協働し、生涯にわたり良い未来の創造に向けた変革を起こす「革新」×「共創」力を備えた人材を育成する



●取組2：アントレプレナーシップ教育

アントレプレナー演習～DXテクノロジーを用いたビジネス創出体験
長野県立美術館の活性化を事例に、生成系AIを活用しつつ、カスタマージャーニーに基づくProof of Conceptを設計



●取組1：産学協同によるPBTS型新構想授業の新設

- 目的
 - ・協同・共創の基礎となる能力の向上
 - ・AI・データサイエンス技術の基礎知識・スキルの向上
 - ・キャリアパスに関する視野拡大
- 授業内容
 - ・文理融合チームでProject Based Team Study
 - ・AI・データサイエンスに関する基礎講義
 - ・実務家によるキャリアパスに関する講義



●取組3：トランスファラブルスキルの涵養

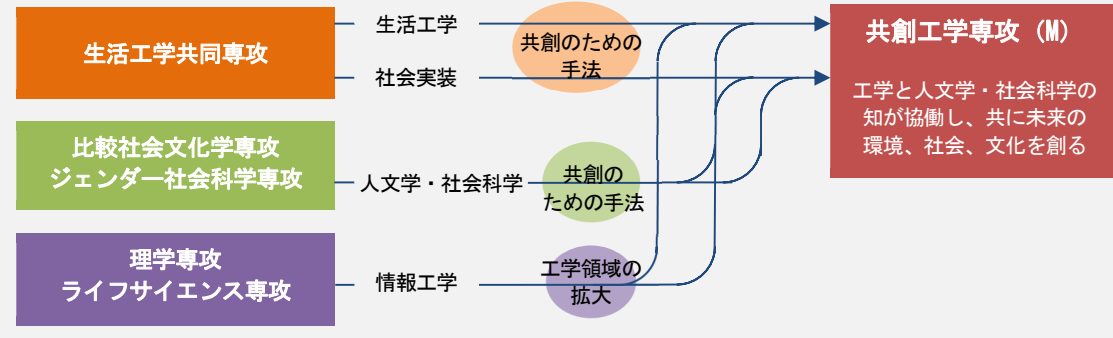
- 「お茶大コンピテンシー10」の設定とコンピテンシー育成支援システムCACICAの提供
- 教育組織と協働してトランスファラブルスキルの見える化と育成プログラムの開発を推進

コンピテンシー育成支援システム CACICA



Transformative Co-creation and Optimization in Career Opportunities for Advanced Scholars (T-COCA)

別添資料 3：共創による工学分野の拡大、身に着けることができる専門分野



共創工学専攻3つのカテゴリ

文化情報



人文学・社会科学の専門知にデータサイエンスを協働させ、デザイン思考、文化創成を行う。（文化情報工学、デザイン工学 等）

環境



持続可能な環境を実現するための技術およびシステム作りを行う。（地理情報学、建築環境工学、設計デザイン 等）

人間



人間の健康を向上させるために生体機能に基づいたマテリアル/デバイス開発を行う。（バイオマテリアル、認知科学、人間工学 等）

お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科

別添資料 4：各専攻における受賞等件数、主な受賞実績

■ 各専攻における受賞件数（出典：教員活動状況データベース）

	2022	2023	2024	2025
比較社会文化学専攻	—	1	2	—
人間発達科学専攻	4	6	3	1
ジェンダー学際研究専攻	—	—	—	1
ライフサイエンス専攻	1	1	1	—
理学専攻	5	3	7	4
生活工学共同専攻	2	1	—	2
博士後期課程計	12	12	13	8
比較社会文化学専攻	—	—	—	1
人間発達科学専攻	—	1	4	—
ジェンダー社会科学専攻	—	—	—	1
ライフサイエンス専攻	4	9	11	11
理学専攻	36	35	44	45
生活工学共同専攻	3	—	2	6
博士前期課程計	43	45	61	64
総計	55	57	74	72

■ 主な受賞等実績

- ・ 博士後期課程人間発達科学専攻 3 年の学生が、独立行政法人日本学術振興会の「第 14 回（令和 5 年度）日本学術振興会 育志賞」を受賞（2024 年 1 月）
- ・ 博士後期課程理学専攻化学・生物化学領域 2 年の学生が、独立行政法人日本学術振興会の「第 15 回（令和 6 年度）日本学術振興会 育志賞」を受賞（2025 年 1 月）

■ 研究助成件数（大学院全体：学振特別研究員、科研費、助成金等）

- ・ 令和 4 年度：16 件、令和 5 年度：25 件、令和 6 年度：27 名、令和 7 年度 18 件

＜採用実績のある研究助成等＞

JST 科学研究費補助金（基盤 B、C、萌芽）、日本学術振興会特別研究員、物質・デバイス領域共同研究拠点学生卓越研究員、JST 次世代 AI 人材育成事業（B00ST）、笹川科学研究助成 等